

ウェブにて最新のレーティング情報や配金調整後の基準価額チャートなどがご覧いただけます。http://www.nsjournal.jp/fund/

NSJ日本証券新聞では、読者の皆様からの上場企業や資産運用などに関する情報をお待ちしています。連絡先：(03)3663-8279 (報道部) e-mail: info@nsjournal.jp

「スーパーファンド・ジャパン」
「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」
「スーパーファンド・ゴールド・ジャパン」

市場の上昇・下落に 関係なく利益のチャンス

運用の完全自動化で人間の感情移入による誤算排除

スーパーファンド証券 代表取締役社長 ヨハン ピーター サンター氏に聞く

スーパーファンドは1995年にクリスチャン・バハ氏により創立。それ以前に、金融ソフトウェア・アプリケーションを開発していた同氏は、このシステムをさらに洗練・強化することで、スーパーファンド独自の投資戦略が確立、完全に自動化されたトレーディング手法を実現した。1996年3月に、個人投資家向けマネージド・フューチャーズ・ファンドを最も早く提供した運用会社の1つとして、「Superfund Q-AG」(新規申し込みは既に終了)をオーストリア市場で発売。スーパーファンドの旗艦ファンドである「Superfund Q-AG」は設定来リターンが実に650%の高い実績を誇っている(2011年3月末時点)。日本で、この旗艦ファンドと同様の手法で運用されている公募商品は「スーパーファンド・ジャパン」(ケイマン籍オープンエンド契約型外国投資信託)などである。スーパーファンドの商品は楽天銀行、藍澤証券、エース証券などが取り扱っており、今後、販売網を拡大する方針だ。スーパーファンド証券代表取締役社長のヨハン ピーター サンター氏にファンドの特長や運用手法、強み、魅力、今後の展開などを聞いた。

■運用の柱

スーパーファンドは、投資家が、利益が得られるファンドの提供を目指しているが、特に、顧客の高リターンを望むニーズや、ボラティリティを抑えたいニーズに対応できるよう、取り組んでいる。当ファンドの特長は、投資家の分散投資を重視した点にある。従来の株や債券などとの相関性が低い投資対象を組み入れることで分散化を図っている。運用の大きな柱は、完全自動化だ。従来の一般的なファンドは、ファンドマネジャーがファンダメンタルズ(経済の基礎的諸条件)を見ながら行うが、当ファンドはシステム開発者が考えたモデルを基に取引を行う。投

資対象も、特定の地域に絞らず、分散投資を図るため多岐にわたっている。リスクマネジメントの観点では、相場の下落局面に弱いファンドが多い中、当ファンドは、買いポジションのみに頼る従来型のファンドと違い、下落局面でも利益を出せるように設計されている。

■投資戦略

採用された投資戦略は、マネージド・フューチャーズ戦略と、マーケット・ニュートラル戦略の2つ。「スーパーファンド・ジャパン」はマネージド・フューチャーズの投資戦略を採用しているファンド。リターンとリスクの特性、および最低投資額が異なる3種類のファンドがあり、

円建てとドル建てがある。いずれも、どのような市場環境でも利益を出す絶対リターンを目指している。一方、システムティックな世界株式マーケット・ニュートラル戦略を採用したのが「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」だ。こちらは円ヘッジされたものだ。さらにマネージド・フューチャーズであれ、マーケット・ニュートラルであれ、ゴールド(金)価格と連動したファンドもある。2009年8月から運用されているマネージド・フューチャーズとゴールドをリンクしたファンド「スーパーファンド・ゴールド・ジャパン」は、投資戦略によって異なるが、設定来リターン約25-35%の利益を上げている。



ヨハン ピーター サンター氏

■ファンドの強み

株式や債券の買い持ち主体の従来型のファンドは、常にダウンサイドリスクにさらされている。相場が好環境にある時にはいいが、下げ局面ではリスクが高まる。これに対してマネージド・フューチャーズ戦略や、マーケット・ニュートラル戦略を採用したファンドは、市場の上昇・下落に関係なく、利益が生み出される運用手法に基づいている。ポートフォリオのプロテクションとしての期待が持てる。一般に相場のボラティリティが高まると、運用担当者は感情的になる恐れがある。専門家によって設計・プログラミングされた完全自動化のトレーディングシステムであれば、取引に関する意思決定から人間の感情移入による誤算を排除して、一定のルールに基づいて出されたシグナルによって取引を行う。ここには、人間の判断によるズレはなく、決められた通りに売買が執行される。ファンダメンタルズに基づいた取引とは大きく異なる。

■運用手法

マネージド・フューチャーズ戦略の運用手法としては、「トレンド・フォロー戦略」を採用している。市場の上昇トレンド、または下降トレンドに追従(フォロー)して収益機会を狙う手法だ。もっとも、初期リスクを設定することにより、途中で、これが間違ったトレンドと判断されれば、逆指値注文によってシステム

プロフィール

University of Applied Sciences BFI Vienna卒業(金融学修士)。オーストリア中央銀行を退職後、2004年7月よりスーパーファンド・アセット・マネジメント・ゲーエムベーハー・オーストリアに入社。顧客アドバイザー、欧州及びアフリカの機関投資家・仲介業者の総営業責任者を経て、05年11月よりスウェーデン支店の総責任者としてスーパーファンドの執行役員に昇格。07年1月よりスーパーファンド・ファイナンシャル(香港)リミテッドの常務取締役役に就任。北東アジア地域における業務展開全般を統括。07年10月より香港証券先物委員会(SFC)第1種及び第4種業務責任者。10年4月、現職に就任。

が自動的に損失を制限する。また、投資対象は150種類の先物市場だ。株価指数や金利などの金融先物や、ココア、コーヒー、綿花、コーンなどの商品先物に投資している。個々の相関性の低い市場への分散投資により、リスクが確実に分散され、また、利益が上がる可能性の取引チャンスも増える。

マーケット・ニュートラル戦略では、世界の主要株式市場に上場する流動性の高い個別銘柄および株価指数先物を投資対象として、比較的低いリスクで、着実なリターンを目指す。約2500銘柄の候補リストから自動的に最も有望な銘柄群を選択する。個別銘柄の買いポジションを株価指数の売りポジションでヘッジすることで、株式ポートフォリオ全体を株価変動から保護するという投資

戦略だ。

■ゴールド建てファンド開発の背景

金価格に連動した商品を開発したのは、ゴールドという商品の側面ではなく、通貨としての側面に注目したものだ。ドルの価値がほかの通貨に対して下がっているが、一方で、ドル建て金価格は史上最高値を更新中で、通貨としてのゴールドの価値が上がっている。欧米各国は財政赤字拡大に直面して、国債発行残高が膨らみ、インフレ懸念が高まっている。通貨の価値が低下していくと、ゴールドの価値はさらに上昇するとみている。ゴールド価格に連動させておくことで、ファンドにも有利に働こう。

■啓蒙活動

ファンドの商品性をご理解していただくため、証券会社や投資家向けに研修会や勉強会などのセミナーを行っている。5月19日には大阪でセミナーを開催する。6月には東京でのセミナー開催を検討している。また、関連書籍の発行を通じての啓蒙活動も行っている。商品の浸透を図っていくためにも教育活動は重要であり、今後ともセミナーなどを定期的に行っていきたい。

■当面の目標や計画

1、2年でファンドの残高を、更に1億ドル(円換算約82億円)拡大することを目指している。当社はスーパーファンドが運用するファンドの販売を行うためのみに設立された証券会社だ。今後はスーパーファンドの新ファンドの投入を計画している。(T)

